

青空リンゴ作業体験教室

5月14日、相馬小学校3年生の児童24人は五所地区の佐久間康幸さんの園地にて、授粉作業を行った。

このリンゴ作業体験は、毎年3年生の児童らが行っており、1年を通して授粉作業から摘果や袋掛けなどの作業を行い、収穫まで取り組んでいる。

始めに農業振興課米澤主任から花の部位や器官の名前の説明があり、子房が果実になるなどの話をすると児童らは「こんなに小さくて丸いものが大きいリンゴになるんだ。」と驚いていました。

作業は中心花を選びながら行う為児童らは始め戸惑っていたが、作業を進めていくうちに慣れてきて、あつこい間に授粉作業を終えた。児童らは「もつとやりたい。」という声があり、終始楽しい様子であった。

帰りにマメコバチの巣を見て帰り、今日作業した授粉作業を八チも行っていることを知り、「働き者だね。」と感心していた。児童らは次回の摘果作業を楽しみにしていた。



イラスト見て器官の名前を勉強する



「一緒に勉強しましょう」と声をかける園主(写真右)



保護者の方に授粉のコツを教わる



付けた部分が赤くなるのが楽しいな

記者の目線から

今年の3年生も元気がいっぱい好奇心旺盛で、何でも質問し取り組んでいました。

これから摘果作業や袋掛け等の作業を経て、どんなリンゴが出来るのかワクワクしてきます。

児童がリンゴ作業に理解を深め、地域の主力農業としてこれからも興味を持ってくれるように取り組んでいきたいと思えます。



マメコバチの家を発見!!